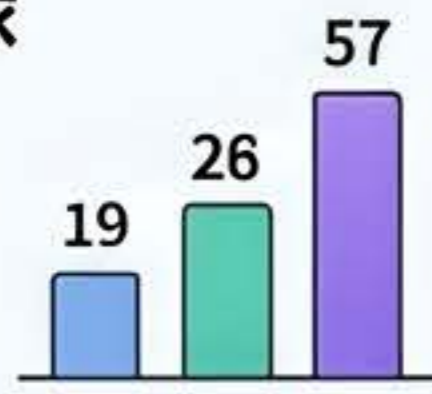


次世代エージェント基盤 Qwen3.7-Max：知財実務における革新と活用戦略

エージェント能力の革新

「Agent Era」のための設計
単なる対話品質の向上ではなく、外勤ツール利用、コーディング、MCPを介した業務自動化に特化しています。

独立評価指数「57」を記録
Artificial AnalysisのIntelligence Indexにて57を記録し、GPT-4o (19) やGPT-4.1 (28) を大きく上回る高い知性を実証しています。



112 tok/s の高速処理と高い冗長性
1Mの大規模コンテキストに対応する高速性をもちますが、9TMトークンに及ぶ「非常に冗長」な出力幅があり、コスト管理が重要です。



35時間の長時間自律実行

カーネル最適化タスクにおいて、432回の評価と1,158回のツール呼び出しを伴う35時間の完全自律稼働を達成しました。

知財実務への適用マップ



先行技術調査の自動化

多言語キーワード展開

各面の特許DB横断検索 (J-PlatPat等)

結果のマトリクス化

エージェント自律実行



クレームチャート・FTO一次評価

製品仕様・請求項要素分解

構造化

文言侵害・均等論一次判定



契約書レビューとリスク抽出

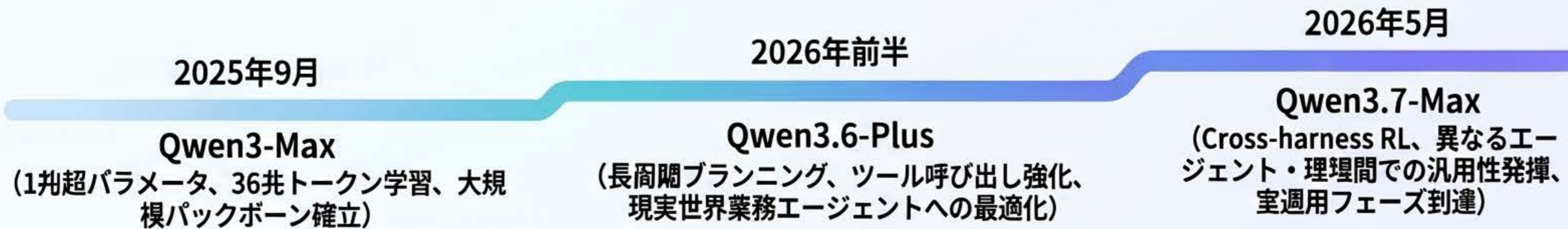
OCRテキスト化

プレイブック比較

修正文義提示

高速実行

Qwenシリーズの進化系統



実務タスク別推奨度とチェックポイント

先行技術調査: 高 (採用推奨) | 条件: 特許DBとの連携と人手レビューの削減

パテントランドスケープ: 高 (採用推奨) | 条件: 出典の監査とコード実行による可視化

特許ドラフティング: 中~高 (条件付) | 条件: 最終的な請求項現稿は必ず井理上が行う

ドケット自動化: 中~高 (条件付) | 条件: 自動登録は行わず、承認フローを前提とする

FTO最終見: 低 (不適) | 条件: 結論ではなく論点整理用途に限定すべき

リスクとコンプライアンス管理



幻覚 (Hallucination) への抑止策
「検索ID付きJSON出力」を強制し、原文を再検証する二重補完の設計が必要です。



プロンプトインジェクションへの警戒
外勤コンテンツからの悪意ある命令によるモデル汚染リスクに対し、サニタイズを徹底する必要があります。



各国の法的制約 (JP/US/EU/CN)
日本の個人情報保護法、米国の発明者認定基準、EUのAI法、中国のデータ適格移転規則など、法規別のガイドライン作成が不可欠です。

パイロット計画 (6~8週間)



Step 1: ガバナンス確定 (週初)
- データ分類、持ち込み禁止データ定義、機密区分マトリクス承認



Step 2: 技術プロトタイプとベンチ試験 (前半~中盤)
- OCR・検索・比較フロー構築、過去案件で「調査時間30-40%削減」測定



Step 3: リスク評価と限定運用 (後半~終盤)
- レッドチーム評価、1~2チームでの実案件運用からGo/No-Go判断